

● 移住交流支援センターだより ●

移住交流支援センターが運営を始めて10年が経ちました。今号では前年度の活動報告と、これから

の10年を見据えた新しい取組み「お家長生きプロジェクト」についてご紹介します。



NPO法人
グリーンバレー
の伊藤が
お届けします。

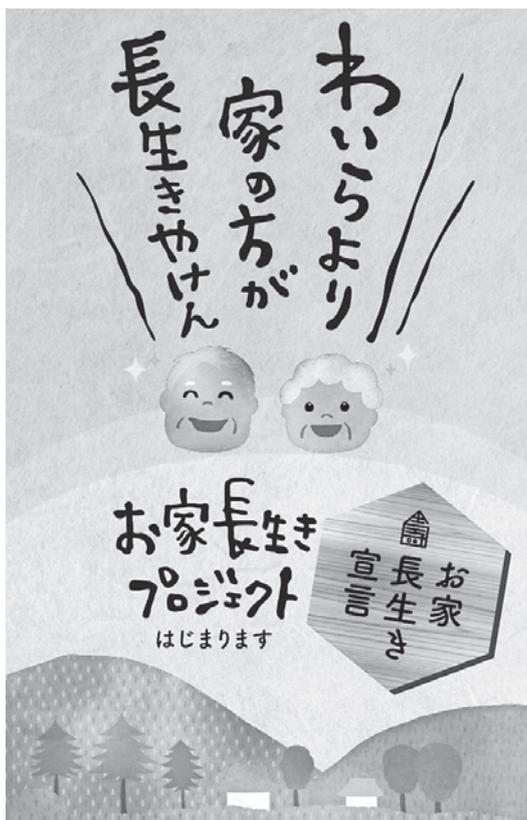
NPO法人
グリーンバレー
☎676-1177
IP：2028

「お家長生きプロジェクト」 が始まります！

今はまだ自分たちが住んでいるけど、いつかこの家が空き家になったらどうしよう？「お家長生きプロジェクト」は、将来空き家になった時の家の活用方法を、空き家になる前から一緒に考えはじめ、次の住まい手を見つけていく取組みです。

空き家になった家は、どんどん劣化が進行していきます。たとえ定期的に管理に帰って来ている空き家でも、その期間が3年、5

年と長くなるにつれ、気づかないうちに家が傷んでしまったという話をよく耳にします。また、神山町への移住の間合せが毎



年センターに届きますが、町内には紹介できる家が足りなくて、希望する人全員に家を紹介することはできていません。

「お家長生きプロジェクト」では、事前の登録をお願いしています。まずは内容のご説明に伺いますので、将来のお家の活用方法を一緒に考えてみましょう。登録が済んだ方には、「お家長生き宣言」の木札をお渡しします。お家のどこか見えやすい場所に掛けておいてください。

家は誰かが住むことで、きれいに保ち続けることができますし、神山町のまちづくりに貢献することもできます。「お家長生きプロジェクト」についてのお問合せは、神山町移住交流支援センターまでお電話ください。

*** 平成29年度の活動報告 ***

● 移住希望者の相談件数 64 件

センター訪問や、電話、メールでの問い合わせなど、1年間でこれだけの移住相談がありました。実際にセンターを訪問してくださった方には、町内各地区の案内や、すみはじめ住宅や空き家の紹介を行いました。

● 新規移住者の数 18 世帯 27 人

移住交流支援センターを介して、これだけの方が実際に移住してこられました。このうち夫婦や子どもがいる家族での移住が5世帯14人で、例年よりも単身世帯の割合が低めでした。また最近では移住後に神山で就職する人の割合が増え、町内での仕事の選択肢が少しずつ増えていることを実感します。

● 新規移住者の平均年齢 約 26 歳

新規移住者は20～30代の方々が中心を占め、就学前の子どもたちが4名いました。県内在住の若い世代からの移住相談が増えていて、昨年度は徳島市や鳴門市、藍住町から引っ越してきた方もいました。